動画を見て脱専門性について感じたことを書け

脱専門性の解釈

未来と過去について

脱専門性について感じたこと

私は、脱専門性とは新しい語句、枠組みを使った研究分野と定義しました。

私は、ニコラス=ネグロポンテ先生の「未来の30年史」を見て、特に18分20秒以降の部分を見て、実際のところ、錠剤を飲むだけで英語が学べる、シェイクスピアがわかる、そんな馬鹿な。ドラえもんの世界かよ。と心の中でつっこんでしまいました。しかし、このように考えたのはモノのインターネット化が持て囃されるこの時代に住む私だけでしょうか。言い方を変えれば、3キロのショルダーホンを背負って、通話していた人々が片手に収まる端末一つで学校の課題を提出する未来を想像しえたでしょうか。

脱専門性とは、まさにこのような、凡人には想像出来ないような未来の何かを示すのではないかと思いました。私は次の30年に期待をしつつ、同時にこれには問題があるとも思いました。

自動化をした結果、作業の効率化は計れたものの、クオリティや個性などの定性的な情報の判断が出来なかったり、イレギュラーな事態に対応出来なかったりしました。学習法が錠剤を飲むことにより、勉強を通して得られる弱い自分と向き合う力や情報処理能力が下がってしまう可能性があります。突拍子も無い赤いカプセルが生まれ、これらの問題も解決された30年後の楽しい世界に期待したいと思います。